

# 教員の個人評価集計及び分析結果

2009 年度実績

総合情報基盤センター

2010 年 11 月

## 1 個人評価の実施状況

### 1.1 対象者数、実施者数

総合情報基盤センターの個人評価の対象者は、教員 4 名(教授 1 名、准教授 2 名、助教 1 名)である。個人評価は全員が実施した。

### 1.2 個人評価の実施概要

センター運営委員会の下に、センター長、副センター長 2 名及び運営委員会委員 1 名から構成される評価専門委員会を設置し、2010 年 11 月 11 日に、個人評価を実施した。2010 年度の委員は、以下の通りである。

只木進一	センター長 (総合情報基盤センター教授)
竹生政資	副センター長 (医学部教授)
渡辺健次	副センター長 (工学系研究科教授)
相川正義	運営委員会委員 (工学系研究科教授)

実施にあたって、「活動実績報告及び自己点検・評価書」の書式ファイルをセンター専任教員に配布し、各自が記入して提出した。

## 2 評価領域別の集計・分析と自己点検評価

### 2.1 教育の領域

#### 2.1.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 教養教育科目 3 科目、及び学内非常勤講師として学部専門教育 4 科目を担当し、適切に実施した。
- 教授、准教授 2 名が工学系研究科の専任であり、3 科目を開講したが、受講生不足により、実質的に 1 科目を実施した。
- 教育改善活動として、シラバス公開、講義内容及び資料の Web を通じた公開、例題や資

料の配布、小テストの実施、WebClass の活用、ネット授業の改善、学生の理解度に合わせたテキスト作成などの活動を行った。

- 全教員が卒業研究の指導またはその補助を行っている。
- 大学院担当の者は、大学院生の主指導または副指導・補助を行っている。

### 2.1.2 活動評価集計と分析

- 5段階評価の自己点検評価の平均は3.6であった。総合情報基盤センターは、情報基盤関連業務を中心として活動するため、学部等に比べて教育負担は少なく設定されている。その担当部分については、ICTを活用した授業改善の取り組みも活発である。
- センター業務と関連し、編入生、他大学からの大学院進学者、9月入学者、留学生などへの利用者講習を行っている。

### 2.1.3 部局としての自己点検評価

- 教育担当部分について、適切に実施している。
- 情報技術を用い、資料や課題の提示など、ICTを活用した授業改善活動への積極的取り組みが行われている。
- センター業務と関連して、非正規の教育活動も実施している。

## 2.2 研究の領域

### 2.2.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 3名の教員が、過去3年間に審査付き学術論文を発表している。
- 全教員が、過去3年間に口頭発表論文を発表している。
- 国際会議参加への参加も行われている。
- 教授、准教授2名が、学内他部局及び学外との共同研究を行い、実績をあげている。
- 教授、准教授2名が、科学研究費補助金への応募など外部資金獲得の努力をしている。代表者または分担者として、継続的に科学研究費補助金が導入されている。
- センター業務と関連した研究テーマに関する研究も活発に行われている。

### 2.2.2 活動評価集計と分析

- 段階評価の自己点検評点の平均は3.4であった。
- センター業務と関連した研究テーマが活発に行われている。
- 審査付き学術論文や国際会議参加が無い教員が見られる。
- 科学研究費補助金などの外部資金獲得への努力が不足している教員が見られる。

## 2.2.3 部局としての自己点検評価

- 各教員が背景とする研究分野及びセンター業務と関連した研究が、概ね適切に実行されていることが口頭発表などに表れている。しかし、審査付き論文としての成果に結びついていない。
- 科学研究費補助金などの外部資金獲得への努力が不足している教員が見られる。
- 部局として定めた研究水準の目標を満たしておらず、研究計画立案などの対策が必要である。2010年度より実施している。

## 2.3 国際貢献・社会貢献の領域

### 2.3.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 1名の留学生を受け入れ、指導している。
- 過去3年間で、国際会議参加が3件ある。
- 3名の教員に、学外の情報化支援の取り組み実績がある。
- 学会や学外委員会活動への参加実績がある。

### 2.3.2 活動評価集計と分析

- 段階評価の自己点検評点の平均は3.3であった。
- 地域貢献、国際貢献・交流活動等は概ね行われているが、活動の個人差が大きい。

### 2.3.3 部局としての自己点検評価

- 地域貢献、国際貢献・交流活動等は概ね行われているが、活動の個人差が大きい。
- 国際会議参加が少ないことが課題である。

## 2.4 組織運営の領域

### 2.4.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 情報政策委員会、評価室、附属図書館運営委員会、地域学歴史文化研究センター運営委員、情報公開・個人情報保護委員会等での活動を行っている。
- ネット授業の運営に協力している。
- センター運営に関わる組織業務を全教員で分担して実施している。

### 2.4.2 活動評価集計と分析

- 段階評価の自己点検評価の平均は4.3であった。
- 小さな組織であるため、全教員が分担して組織業務を行っている。

### 2.4.3 部局としての自己点検評価

- 総合情報基盤センターは小さな組織であるが、全学の情報基盤の整備・運用という重責を担う組織である。そのため、その運営に、全教職員の積極的な関与が不可欠である。
- センター内において、業務分担をある程度明確化したため、業務負担の平準化の改善があった。
- 学術情報基盤システム及びキャンパス情報ネットワークシステムの更新があり、全教員に大きな負担があった。

## 2.5 その他の領域 (教育研究支援)

### 2.5.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 各種システムの開発・運用に全教員が取り組んでいる。
- 学外の研究会やセミナーなど参加し、積極的に情報収集が行われている。
- 学内、地域の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

### 2.5.2 活動評価集計と分析

- 段階評価の自己点検評点の平均は4.0であった。
- 全教員が各種システムの開発・運用に関わっている。
- 学内、地域の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

### 2.5.3 部局としての自己点検評価

- 全教員が、教育研究支援活動を行っており、評価する。
- センター内において、業務分担をある程度明確化したため、業務負担の平準化の改善があった。

## 2.6 教員の総合的活動状況に関する自己点検評価

- 少ない人数で大学の情報基盤を担う業務を負い、教育、研究、国際・社会貢献、組織業務、教育研究支援の各領域において、概ね全員が活発に活動を行っている。
- 人数に対して総業務量が多く、かつ毎年増加している。そのため、教育と研究が十分に行われていないだけでなく、センターの業務にも支障が発生していることがうかがわれる。